

発行者／財団法人千葉県文化振興財団 理事長 須藤 敏行
〒260-8661 千葉市中央区市場町1番2号
電話 043-222-0077 FAX 043-221-6438
E-Mail info@cbs.or.jp HP http://www.cbs.or.jp

◆ これから行われる財団主催の主な舞台公演のご紹介 ◆

千葉県文化会館開館40周年記念

『秋のオーケストラコンサート「新世界」と「ラフマニノフピアノ協奏曲」』

“挫折や失敗も含めた人生体験、とりわけ失恋などがあると
ラフマニノフの2番には有益なのですが(笑)”

こう話されていたのは、高木竜馬君のお母様の高木美香さん。
これからの人生経験まるごと楽しい高木君の「ラフマニノフ2番」。
今の演奏と10年後・20年後・・・の演奏を聴き比べる為にも、
ぜひとも足を運んでおきたい演奏会です！



日時:10月7日(日)14時開演 料金:S 4,000円 A 3,000円(学生各券 1,000円引)
出演:指揮/現田茂夫 ピアノ/高木竜馬 管弦楽/セプトニスちば
お問合せ:千葉県文化会館 043-222-0201

千葉県東総文化会館 『東総の第九 2007』

年の瀬と言えば・・・やっぱり「第九」でしょう！！



平成5年から始まった「東総の第九」も今年で15年目。
15年ともなると、結団当初から参加している合唱団員も、
子は親になり、親は祖父母になり、新人だった人も今では
すっかりベテランに・・・！

年々成長する地元合唱団の「第九」を是非お聴きください！

日時:12月23日(日)14時開演 料金:全席自由 2,500円
指揮/森山崇 合唱指揮/石毛誠志
管弦楽/ニュークレモナフィルハーモニーオーケストラ
お問合せ:千葉県東総文化会館 0479-64-2001

青葉の森公園芸術文化ホール 『創作狂言と青葉能』

青葉の森公園芸術文化ホールの誇る能舞台で、
狂言と能を堪能出来る師走の2日間！

まず1日目は、千葉大学との連携企画「房総発見伝 in 狂言-千葉の羽衣-」。
これは千葉県内の民話や習慣を取り上げ狂言として創作していこうという企画で
今年2月の「抱腹絶倒ちばわらい」は、文字どおり抱腹絶倒の面白さで大好評でした。
今回は千葉市の「千葉の羽衣伝説」を皆さんに楽しくご紹介いたします。

そして2日目は、今年で15年目を迎える「青葉能公演」。今回は能5流派の
最後として、関東ではなかなか見る機会の少ない京都の金剛流がついに登場。
豪快さと華麗・優美さを併せ持った「船弁慶」。この機会をぜひ、お見逃しなく！



『房総発見伝 in 狂言-千葉の羽衣-』

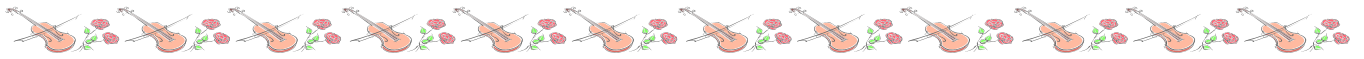
日時:12月1日(土)14時開演 料金:S 4,000円 A 3,000円(学生各券 1,000円引)

『青葉能公演』

日時:12月2日(日)13時30分開演 料金:S 6,000円 A 4,000円(学生各券 1,000円引)

演目:能(金剛流)「船弁慶」白波之伝 金剛永謹 狂言(和泉流)「昆布売」野村万作 ほか

お問合せ:青葉の森公園芸術文化ホール 043-266-3511 ※チケット購入者対象のミニ能楽鑑賞講座開催！詳しくはホールまで。



アキラさんと千葉県少年少女オーケストラの大発見コンサート ～ 宮川彬良先生インタビュー ～

8月26日、千葉県東総文化会館で行われた大発見コンサートも大盛況の内に終了いたしました！
(チケットの売り切れが早く、ご覧になれなかった皆様、本当に申し訳ありませんでした。)
今回はそんな大人気の“アキラさん”に、気になる“あれこれ”を伺って参りました。



♪音楽は「それしかない道」

— お父様（作曲家、故・宮川泰さん）のお仕事は小さい頃からご覧になって
らしたと思いますが、アキラさんご自身が音楽の世界に身をおこうと思ったき
っかけは？

「最初に思ったのは、小学1, 2年の時かな？作文に『将来の夢』というのがあって。“作曲とか編曲とかやりたい”って書いて、家に帰って仕事の打ち合わせに来ていた大人たちに見せたらすごく受けて（笑）『アキラ君はお父さんよりえらくなるんだよな～？』『うん！』って言う“わあ～”って受けるからそれが凄く楽しくて。決意したというよりそれしかないっていう感じだったのね。どうしても『そうしか思えない。』ってカンジで・・・。
あと中学校で演劇をやってて僕は音響をやってたんだけど、天啓を受けたというか『ああ、これが（舞台音楽が）僕の仕事だなあ』って。それが中学生の時に分かっちゃったんだよね。親とはちょっとだけ違う形だけど、これが僕のやることなんだなあ、って。」

♪いつの世も“イマジネーション”が面白い！

— 子供番組に携わる中で、ご自身の子供の頃の事を反映してるようなことはありますか？

「子供の頃、何が好きだったかと思うと、想像すること、イマジネーションが好きだった。散々自分で工夫してダンボールの基地を作ったり、ブロックで何か作ったり・・・。目に見えない欲しいものが想像力の中では手に入っちゃったわけ。『音楽』というものが物凄く想像力を掻き立てるものだと気づいたのはずっとずっと後だけど。今でもあまり変わらないね。おもちゃが音楽になっただけで。小さい頃はいろんなおもちゃが出る度にワクワクしてたけど、ある時から作り手が一線を越えてしまって。全て押し付けるような“出来ちゃってるおもちゃ”が出てきちゃった。一瞬すごく欲しいと思うんだけど、次の瞬間、『すぐ飽きるなあ・・・』って。工夫の余地がないからね。その点、音楽はいつでも1から作れるから。そこばかりは“芸の世界”だなあと思ってやっています。」

♪僕は「音楽そのもの」の役目

— 最後に子ども達へのメッセージをお願いします。

「それは・・・特になんだよね。それは音楽をやっている時、発散して表現しているはずだから、勘のいい子達は分かっているはずだし、言葉でいう余地があったら、もっと音楽に重ねて考えなければいけないと思うんだよね。なるべく言葉では言いたくないというか、言葉で言いたいことが一杯あるようじゃ困るよね（笑）」

お忙しい中にも係らず、思わず「はい！本当に！」とうなずかずにはいられない、興味深いお話を
お聞かせ頂きました。ここに掲載出来なかった分のお話は、財団のHPでご紹介しています！

財団ホームページのご紹介

財団法人千葉県文化振興財団のホームページでは
◆財団自主公演チケットのご予約◆各種申込書のダウンロード◆施設の空き日検索◆
などが行えます。

<http://www.cbs.or.jp>

～最終的な空き日のご確認及び施設のご予約手続きは、各ホールへ直接お願いします～

県民の皆様へ愛され40年

今年、千葉県文化会館が開館40周年を迎えました。
千葉大学教育学部跡地に「千葉文化の森」構想として開館し、昭和42年3月18日のこけら落とし公演では、当時まだ一般の方々には馴染みのなかった宮内庁による雅楽が披露されました。
あれから40年。「ちばぶん」の愛称で親しまれながら、舞台上で演じ、また客席で聴衆して下さった多くの方々に支えられて参りました。
これからも50年、100年とちば文化の歴史を刻みたいと思います。
皆様のご利用を心よりお待ちしております。

編集後記

『千葉県文化振興財団News』創刊号、楽しんで頂きましたでしょうか？ぜひ皆様のご感想などお寄せ下さい。
『千葉県文化振興財団News』では、これからも年に3回のペースで、旬な話題を皆さんにお届けして参ります。
次回は2008年1月発行予定です。